



令和7年3月21日

教育目標：よりよい未来を創り出そうとする児童の育成

～なりたい自分・仲間・学校になるためにチャレンジ～

東陵小だより

発行者 校長 深澤 弘美

1年間のご支援、ご協力ありがとうございました

大雪で2日間休校になるなど寒さの厳しい時期もありましたが、ようやく暖かくなり、3月18日令和6年度東陵小学校卒業証書授与式を挙行いたしました。22名の卒業生は、胸を張って東陵小学校を巣立っていきました。

令和6年度ももうすぐ終わります。この1年間、本校の教育活動をお支えいただき、本当にありがとうございました。4月からまた、新しい年度が始まりますが、今後とも、東陵の子どもたちのために、皆様のお力添えを賜りますことをお願い申し上げます。



卒業式式辞

(前略) 卒業される二十二名のみなさん、ご卒業おめでとうございます。卒業証書を受け取る「りりしい姿」を見て、改めて皆さんが過ごした六年間が、充実していたことを感じました。

皆さんと出会ったあの日から、ちょうど二年が経ちました。この二年の間に、あなた方の「力強く輝く」姿と「柔らかく温かく輝く」姿の両方の姿を見せてもらったことが思い出されます。まずは、「力強く輝く姿」から振り返ってみたいと思います。東陵小学校では、五年生の終わりから六年生にかけて一人一人が「輝く

場」を設けています。あなた方の「力強く輝く」姿は、六年生を送る会で見ることができました。どちらかというと、一人一人が積極的に前に出るよりも、周りの人と力を合わせながら物事を進めていく子が多い印象を持っていたので、堂々と前に出て表現することができるだろうか、前に出て表現することを楽しんでくれるだろうか、と少々心配していました。しかし、練習を重ねる度に、自信を持って力強い表現に変わっていきあなた方の姿を見ることができ、本番が楽しみになりました。六年生を送る会は、あなた方のパフォーマンスが会を大いに盛り上げ、温かい笑顔と拍手が会場に広がりました。六年生を送る会は大成功でした。あなた方一人一人の「力強く輝く」姿を見ることができたと思いました。これは、目標達成のために努力した成果に違いありません。そして、お互いが力を発揮できるように、温かいアドバイスをし合ったことも力になっていたのだと思います。

九月の運動会は、小学校生活最後の運動会でした。ここでも学校のリーダーとして運動会を盛り上げるために、一人一人が注目される場で堂々とした姿を見せてくれました。運動会も「力強い輝き」が光ったときでした。

次に「柔らかく温かく輝く姿」をふり返ってみましょう。六年生に進級した四月。一年生のお世話をしたり一緒に遊んだりしてくれました。これは、毎年どの学校のどの六年生もしていることです。そして、四月が終わるころにはそういう姿をあまり見なくなるものです。しかし、あなた方は四月が終わっても、だれに強制されるわけでもなく自然に優しく一年生に関わり続けてくれました。休み時間は一年生と六年生が一緒に過ごしていることが当たり前風景になっていました。二学期になっても廊下で一年生が六年生に会うたびに手を振ったり話しかけたりする姿は日常的に続いていました。一年生が楽しそうであるのはいうまでもなく、六年生のあなた方も笑顔で楽しそうにしていることをとても嬉しく思っていました。私は、そういうあなた方の姿を見て「柔らかく温かい輝き」で学校を満たしてくれていると思いました。

そして、卒業を前にした二月。担任の岩崎先生のご縁で輪島六小学校の皆さんとつながり合うことができました。能登半島地震で被災した輪島の仲間に、ZOOMを通して、同じ石川県にいる仲間として「輪島のこと忘れないよ」というメッセージを伝えることができました。輪島の仲間からもたくさんの元気を受け取ることができました。離れていても忘れずにいるよ、という柔らかく温かい気持ちが輪島の仲間の心にきくと届いたにちがいません。

「力強い輝き」も「柔らかく温かい輝き」も、どちらも間違いなくあなた方の「輝く姿」でした。そんな輝く姿を見せてくれたあなた方は、東陵小学校の自慢の卒業生です。下級生にお手本となる良き姿を見せてくれたことに改めて感謝しています。

小学校での六年間、多くのことを学び、経験し、乗り越えてきたからこそ今のあなたがあります。頑張ってきた自分を誇りに思ってください。そして、ここまで成長するためにお世話になった方々から受けた「恩」を忘れないでいてください。生まれてから今までずっとあなた方のことを大事に思い見守り支え続けてくださっている家族への恩、「東陵の子」として見守ってくださった地域の方々への恩、勉強だけでなく人として大事なことを教えてくださった先生方への恩、励まし合い共に成長してきた仲間たちへの恩、自分が受けた様々な恩を深く心に刻んでほしいと思います。「恩」という文字は、「因（よる）」と「心」から成り立っています。ですから「恩」は恩を受けた人間の「心の因（よ）りどころ」になっていくもののだといえます。卒業していく皆さんが、これから人としてよりよく生きていこうとするとき、この六年間に受けた「恩」が、生きる支えとなり、他の人への深い思いやりにつながっていくものと信じています。皆さんが心に刻んだ「恩」を支えにそれぞれの道を力強く歩むことを期待しています。そして心から応援しています。（後略）

令和七年三月十八日

小松市立東陵小学校 校長 深澤 弘美